4人の先生方が名誉教授に

専修大学名誉教授称号記授与式が4月20日、神田キャンパスで行われた＝写真。

日高義博学長らが列席し、この3月に定年退職した4氏に名誉教授称号記が授与された。

授与式は4月5日に開催される予定だったが、東日本大震災の影響で延期された。

泉　武夫元経済学部教授（在職42年11カ月）
梅本　吉彦元法学部教授（在職32年）
新山　雄三元法学部教授（在職20年）
平井　宜雄元法科大学院教授（在職10年）

日高理事長・学長が石巻を視察

石巻専修大学教職員ら激励

▲ 坂田石巻専修大学長（左端）とともに亀山紘石巻市長＝右端＝（元石巻専修大学教授）を訪問した日高理事長（中央）

日高義博理事長・学長が4月15、16の両日、東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市などを訪れ、石巻専修大学の教職員を激励するとともに、大学施設や市内各所の視察を行った。

また、坂田隆石巻専修大学長とともに、同大学と「包括連携協定」を締結している石巻市、東松島市、女川町や、産学連携事業・若手研究者の研究助成などに支援・協力している石巻信用金庫を訪問し、お見舞いの言葉と見舞金を届けた。

※包括連携協定…教育研究機関としてのノウハウを地域活性の推進に役立てるため、2市1町と締結した協定。

教育力、サポート体制をご父母に紹介

「専修大学ペアレンツフェア」開催

専修大学の教育力やサポート体制をご父母に紹介し、大学を選ぶ際の参考にしてもらうため、「専修大学ペアレンツフェア」が5月8日に神田キャンパスで、同14日に生田キャンパスで開かれた＝写真。

約185人のご父母と受験生が参加した神田キャンパスでは、始めに日高義博学長・理事長があいさつで、創立者たちの思いを受け継いだ本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」を紹介し、「大学での学びは偏差値では測れない。本人が本来持っている力を発揮できるような教育を行い、卒業後に社会で活躍する人材を育てている」と話した。

大曽根匡入学試験委員長が「専修大学における教育力」を紹介し、入学センタースタッフが、親としてどのようなポイントをアドバイスすべきかなどについて講演した。

人文科学研究所創立40周年記念論集を刊行

『移動と定住の文化誌―人はなぜ移動するのか』

昨年度、創立40周年を迎えた人文科学研究所は、それを記念する論集『移動と定住の文化誌―人はなぜ移動するのか』を彩流社から刊行した（2800円＋税）。

人文科学研究所（小山利彦所長）は、専門が非常に多岐にわたる所員をかかえているが、それを横断しての企画である。グローバリゼーションという言葉に示されているように、現代社会はきわめて多様化している。しかし、単に多様なだけではなく、人々がさまざまな理由によって移動し、住むところを変えている点に特徴がある。これは有益な交流を可能にしたが、軋轢（あつれき）も生んだ。

本書にしたがって例を示すと、すでに15世紀のメキシコに大がかりな移住の物語が存在した。

現代に目を向けると、前世紀初頭に見られたドイツの女性人身売買の背景には、海外移住問題があった。

また、関東大震災でおこった朝鮮人虐殺は、外国から移住してきた人々への差別意識が見られる。現在の韓国の田舎では、日本とは違い、移動をくり返すことが常態化しているところがある。

なぜ、こんなことが起こるのか。さらには、人々の移住ということを宇宙的規模で考えることもできる。こうした問題を論じながら、本書は、明確な基準を喪失し、流浪する人々の姿が現代という時代を考えるさいのキー・ポイントではないかと訴えている。（文学部教授・伊吹克己）

流浪する人々から現代を考える

2012入学ガイド刊行

「2012入学ガイド」が発行されました。ご希望の方はお問い合わせください。

問入学センターインフォメーション
【神田キャンパス】☎03（3265）6677
【生田キャンパス】☎044（911）0794
http://www.senshu-u.info/

訃報

山嵜謹哉氏（やまざき・きんや）名誉教授・元文学部教授

4月30日、老衰のため88歳で死去。1950年から在職。1993年定年退職。主な担当は歴史地理学。

授業のツールボックス第4版が完成

教員の授業改善の取り組みを報告

大学の教育改善に組織的に取り組む教育開発支援委員会（委員長＝宇佐美嘉弘経営学部准教授）は、教員向け冊子「授業のツールボックス（第4版）」＝写真を刊行し、全専任教員に配付した。

この冊子は、教員が個人・組織として授業改善の取り組みを報告する形をとっている。第1章「私の授業」では、「ポータル・レナンディ等を利用した授業の一例」（野部公一経済学部教授）などが、第2章「教育改善への組織的な取り組み」では、「コース共通教材の試作～経済学部『福祉と環境コース』」（町田俊彦経済学部教授）などの寄稿が掲載されている。第3章は法学部の「学生による授業評価」について学生参加型の取り組みが報告されている（深澤民司法学部教授）。

宇佐美委員長は「『知のツールボックス』（専修大学出版企画委員会編）とともに、他大学で参考にされていることが分かった。専修大学の組織的な教育力の向上につながるよう、また教育に対するさまざまな取り組みを外部に発信していくよう、内容を充実させたい」と話している。

「専修大学史紀要」第3号を発刊

大学史資料課は、このほど「専修大学史紀要」第3号＝写真＝を発刊した。

今号は昨年8月、校友会大分県支部創設60周年記念大会で行われた日高義博理事長・学長の記念講演をまとめた講演録「田尻稲次郎と堀之内松十郎」をはじめ、座談会「専修大学創立130年記念事業を振り返って」などを収めている。

希望者は大学史資料課☎03（3265）5879まで。

「東日本大震災」により被災した学生等に対する支援金のご協力について

石巻専修大学及び専修大学、専修大学北海道短期大学に在籍する被災地域の学生への奨学金及び生活支援金等として、支援金を募集しております。皆様の温かいご支援をお願い申し上げます（寄付金控除の対象となります）。

詳細はニュース専修4月号およびホームページをご覧ください。

問専修大学募金局☎03（3265）3157

教員組合・職員組合から協力

専修大学教員組合は、日本赤十字社を通じて被災地へ送る被災義援金と前記の支援金に、同職員組合は支援金を募金局に託した。